

UAEL1

URBAN AMENITY ENGINEERING lab.

No.1
2009.5

都市アメニティの輪を広げる ニュースレター創刊号

本誌発行にあたって

1

'08 修士・卒業論文

2

'08 卒業設計

3

修了・卒業生からのメッセージ

4

'08 学外活動

5

新メンバー紹介・学科ニュース

6

情報かわら版

7

建築環境システム学科は、1講座6グループ制から4講座4グループ制に体制変更しました。その結果、旧都市アメニティ工学グループと旧建築計画学グループは計画学講座として確立し、建築・都市アメニティグループとなりました。当面に活動は従来そのままですが、旧建築計画学グループとの融合的な研究にも取り組んでいく方向です。

本誌発行にあたって

都市アメ研卒業生・修了生の皆さん、そして研究室に関わりのある皆様、お元気ですか！

秋田県立大学は、ようやく開学 10 周年の節目を迎えました。そして、都市アメ研究室も今年 3 月には 7 期目の卒業生と 5 期目の大学院生を世に送り出しました。一昨年には小川先生が退職され、代わりに都市計画を専門とする山口先生が研究室のメンバーに加わるなどの体制変化もありましたが、学部棟 G I 304,305 を中心とするゼミ活動は、質・量ともますます充実してきているところです。

このニュースレターは、研究室のフレッシュな活動状況を OB・OG や関係者の皆様にお伝えするとともに、研究室のネットワークを強化していこうという意図から生まれました。久しぶりの大学の雰囲気懐かしんでもらったり、最新の研究動向等に目をとめて頂ければ幸いです。

建築環境システムと都市アメニティ



建築環境システムは、建築を媒介として、外部環境と内部環境との間で、物質やエネルギーが出入りする、開かれた系のことである。この建築環境システムを名称とする学科が発足した時、建築の外部空間や都市空間を扱う講座として、都市アメニティ工学講座が創設された。建築を対象とする学科の中に都市を対象とする講座があるのは大変珍しいこと

であった。建築学は、大変ユニークな位置にあり、例えばインテリアを専門とする場合、建築のことが分からなくても誰も文句を言わない。都市計画や土木を専門とする場合も、建築のことが分からなくても誰も不思議に思わない。造園やランドスケープの場合も然りである。しかし、建築を扱うからには、都市のことは知りません、インテリアのことは関係ありません、と言うことは許されない。本学科が建築環境システム学科と名付けられたのも、そんな背景を踏まえてかも知れない。従って、本学科に都市アメニティ工学講座が創設されたのは自然な流れであった。私がこの講座に配属された時は、てっきり環境学講座に就くものと思っていたので大変驚いたのを覚えている。そして自治体の地理情報システム (GIS) を研究するようになったわけだが、その結果、昨年度より由利本荘市にて全庁統合型時空間 GIS が本稼働するに至り、総務省の外郭団体より市が賞をもらう等、地域社会に貢献できて良かったと思う。

今、大学の法人化や大学認証評価の始まり等、一地方大学の現場にも、変化の波が押し寄せてきている。そんな中、これまで以上に教員・学生の結束によるイノベーションの必要性が求められ、都市アメニティ工学講座 (研究グループ) は、旧計画学講座 (研究グループ) と合併し、今年度より、新たに計画学講座 (建築・都市アメニティグループ) として発展解消した。この合併は「タコツボ化」を防止する意味も含まれる。タコツボ化とは、ひとりの教員の価値判断だけの小さな世界に学生を押し込めた状態を指す。教員のカリスマが発揮される面もあるが、人は皆、どこか人間的に完全でない部分があり (それが人間味でもあるのだが) 個性と多様性が尊重される社会では、良い体制とは言えない。都市アメニティ工学講座 (研究グループ) は、当初より、タコツボ化の抑制に努めてきたが、その伝統を今後の活動にも継いでいきたい。

浅野 耕一
【計画学講座・都市アメニティ工学分野】

始まりはいつも思いつき

3 年目に入った山口先生 (以下、「Y 先生」) は、相変わらずせっかちです。思いついたことは、まずやってみないと気が済みません。できる or できないは長年の経験から見通せると自負しているところが怖いところで、それに付き合うゼミ生も大変です。昨年末は、「そうだ、せっかくの研究成果だ。県内外に公表するための『研究室独自の卒業・修了展』を開催しよう！」と突然言い出しました。まさに思いつきです。口癖の「物事を実現するには、担当者とスケジュール。」とばかり、形式的な合意形成のみでドンドン進めていきます。担当になった中島くん (当時 3 年生) は、就職活動も重なる時期でたまったものではありません。しかし、ふたを開ければ秋田駅前アルヴェのきらめき広場には論文ポスターと設計図面・模型による建築学科らしい展示ブースが出現し、浅野先生企画のシンポジウムともども大成功でした。準備した学生たちからも「大変だったけれど、自分たちの成果を発表できる場ができた。いろいろな人の意見も聞けたのも良かった。」との声が聞かれ、さすがの Y 先生もニンマリでした。

そんな卒業生を 2 期分出して、今度は職場での様子が心配となった Y 先生。卒業生たちはどんな生活をしているだろうか？辛い目にもあっているんじゃないだろうか？なせ、県立大のネットワークなんて、旧帝大系や巨大私学に比べれば皆無に等しいじゃないか。せめて、在校生たちの奮闘ぶりを伝えて、励ましてやりたいもの、と。そこで、またまた思いつきで「研究室のニュースレターを出そう！」とあいなった。ニュースレターのイメージがさっぱりしないのに、「とにかくイメージをつくってきなさい。」の指示。出てきた構成ドラフトに不満な Y 先生は、いつものミミズがはっているような文字で A 4 版 8 枚分を書きながら、「あとは、やっておくように。」と涼しい顔。創刊号の担当者となった福田くん (現 4 年生) も大変です。それでも、都市アメの学生はたいしたものですね。このように立派なニュースレターとなって皆さんの手元に届いているのですから。まあこれで、研究室の縦のネットワークづくりの下地もできたと、ほくそ笑む Y 先生でした。その一方で、指示を出すごとに廻りまわって自分の仕事も増えていくことを、いつも後になってから気づく Y 先生でもありました。



山口 邦雄
【計画学講座・都市アメニティ工学分野】

佐藤あすか論文が教授得票数2位 橋本力、卒計で安原先生に褒められる！！

佐藤あすかの論文は、各研究室の優秀な論文を押さえ、教授得票数第2位という好成績を収めた。

また、橋本力も安原先生から『プロポーションが良いね』と高評価を得ることが出来た。今回、論文・設計が共に高評価を得たことは今後の都市アメの発展に非常に大きな跡を残した。

平成20年度の修士論文・卒業論文・設計の タイトル

修士

石澤 公明

・防災力向上を目的とした地域間の住民連携に関する研究

吉田 幸太

・中心市街地活性化基本計画の類型に基づく活性化実績への影響とその要因に関する研究

学部

小暮 賢

・景観形成における届出制度の運用実態と課題
-秋田市、仙台市、青森市の景観形成基準に着目して-

佐藤 あすか

・非線引き都市計画区域における目標都市像からの乖離実態とその要因に関する研究

佐藤 昌宏

・まちづくりワークショップにおける意見推移の実態とその要因に関する研究

高橋 ちえみ

・全庁統合型時空間地理情報システムの災害時における有用性の検討 (その2)
-図上訓練を通じたレイヤ定義と情報処理カードの改良-

渡辺 佑真

・自治体の不定型業務に対する時空間地理情報システムの有効性に関する研究

卒業設計

小熊 耕平

・7つの「ネクラ」が世界を救う

橋本 力

・com-plus こんぷらす
-出会いをみつける集合住宅-

非線引き都市計画区域における目標都市像からの乖離実態とその要因に関する研究
-秋田県大館市の商業立地に着目して-(抜粋)

B07C018 佐藤あすか

・研究の意図と目的

都市計画マスタープラン(以下「都市MP」)の策定に伴い、各地方都市で都市機能の集約化に向けた目標都市像の再構築が着手されている。しかし、近年の車依存社会への移行により、多くの非線引き都市計画区域では大規模商業施設が郊外部へ進出し、商業の拡散が進行している。さらに、この問題は中心市街地の衰退に深く結び付いている。

こうした背景を受け、多くの地方都市ではコンパクトな目標都市像の実現に向、郊外部と市街地部の両面における商業立地を適切にコントロールしていくことが課題となっている。

以上のことから、本研究では用途地域の「外縁部」と「内部」の両面における商業立地に着目し、目標都市像と現状の乖離実態を明らかにするとともに、その要因を考察することを目的としている。

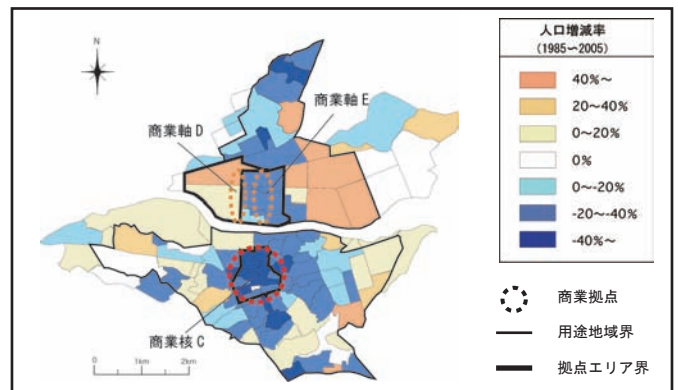


図1 支持人口の増減率【行政区域別※2】(1985~2005)

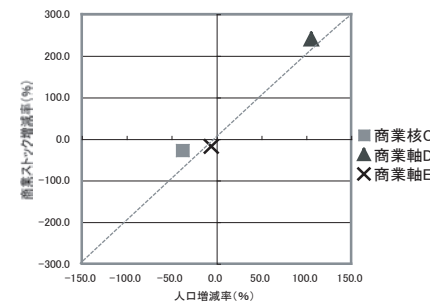


図2 商業ストック増減率と人口増減率の関係

・結果とまとめ

その結果、「外縁部」において、商業フローが活発になることで、目標都市像からの乖離が発生していた。この要因は、「緩慢な土地利用規制」と「道路整備による大規模商業施設の誘発」であった。さらに、「内部」に着目すると、目標都市像に位置づけられている市中心部の商業拠点で商業ストックの減失が生じることで、乖離が発生していた。この要因は、「外縁部」とは異なり、「支持人口の減少」であった。

卒業設計 2008

com - plus ～出会いを見つける集合住宅～

橋本 力

コンセプト

今日の街の希薄化という問題の中で、近隣・街から孤立しがちな新住民のためのマンスリータイプの集合住宅を提案する。住宅の新築や立て替えなどの仮住まいの際や、その地域へ引っ越しなど、街の新子住まいに住まうまでの一定期間を過ごす人達を対象とする集合住宅の住民と街の人々の交流が発生する仕組みを設け、新住民が新しい環境で、近隣・街の人々との交流が円滑に行われやすくなるようにし、希薄化を初期段階から抑できることを期待する。ここで言う交流とは、街の文化や風習、自治会の活動を知ることや、その街の人達と顔見知りになったり交流活動を行ったりすることである。



- 1 カフェ
- 2 図書館
- 3 インフォメーション
- 4 ギャラリー
- 5 住宅群

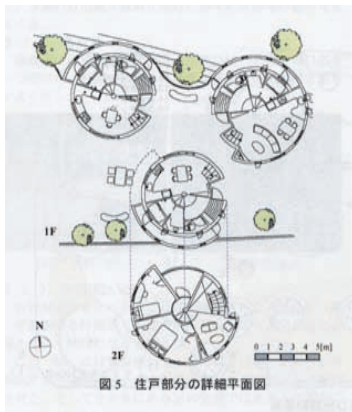
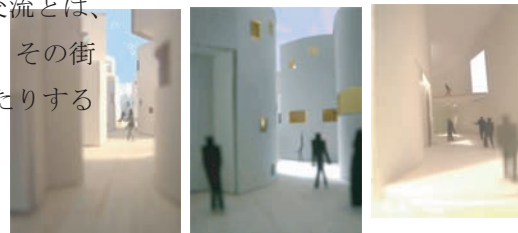


図5 住戸部分の詳細平面図



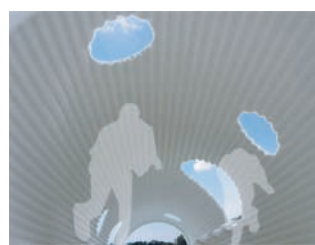
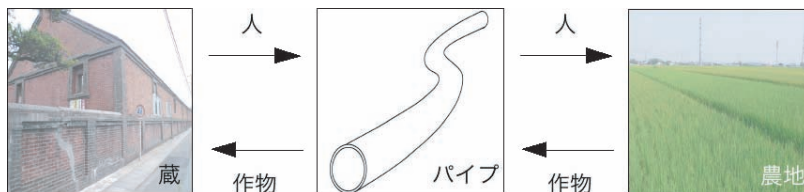
2 7つの「ネクラ」が世界を救う

小熊 耕平

コンセプト

- ① 醗酵蔵と酒蔵を中心に健康的な食生活の場を作る
- ② 醗酵蔵・酒蔵と農地を結び、農から食までのサイクルを作る

農と食の一連の流れの象徴として蔵と田畑を“パイプ”で結びつける。これにより、農から食におけるサイクルをまち全体に展開する。



先輩から後輩へ……

一言もの申す！！



吉田 幸太（大和ハウス工業株式会社）

都計小ゼミの皆さん、都市計画の基礎を学ぶ機会が学部時には無かったので、応用である研究は大変だと思います。山口先生に、私のような「心臓に悪い刺激」ではない良い刺激を与えられる様、頑張ってください。都市アメの皆さん、今の雰囲気を大事にしつつ、強い研究室に向け頑張ってください。

石澤 公明（パナホーム株式会社）

先輩後輩を最大限使うこと。先輩は多くのことを教えてくれます。後輩には自分の知っている事を教えましょう。先輩後輩はいつ助けになってくれるか分かりません。日頃から仲良くして損はないと思いますよ。（笑）研究はもちろん、就活から人生まで、少なくとも少なくとも1年は長い人生を生きてきています。その差は埋めようのないものです。都市アメはとても雰囲気の良い研究室です。その雰囲気を保ちつつも、より強い研究室を目指して頑張ってください。都市アメは、他のどの研究室よりも、卒業の時に成長する研究室だと私は感じています。



小熊 耕平（本学大学院）

4年次の1年間は「濃い」です。時間はあっという間に流れます。就活や入試、プロジェクトや共同事業、バイトや家事研究以外にもやるべき事が沢山あり、忙しい日々です。疲れも溜まります。当たり前です。学生時代の総まとめですから。これくらい出来ない仕事なんて出来ないのでしょうか。しかし、その忙しい日々は1年間しかありません。自分の成長時期はこの1年間に集約されているのかもしれませんが。研究だけでなく、人生においても忙しい期間です。多くのことを学ぶチャンスです。仲間を大切にしましょう。人間は1人では生きていけません。励まし合い、愚痴を言い合い、注意し合い大切な関係を築いて下さい

小暮 賢（株式会社安藤建設）

都市アメの研究室は雰囲気も良く居心地が良い場所です。是非庫も空気を維持して行って欲しいのですが、研究と抜く時のメリハリをはっきりさせないと雰囲気に流されてしまいます。また、仲良いだけでなく、積極的に議論できる雰囲気も必要だと感じます。行き詰まっている時にちょっとしたアドバイスが解決の糸口になることが多々ありました。仲間は使うべきです（良い意味で）。研究でも私生活でも悔いが残らない充実した1年を過ごして下さい。



佐藤 あすか（大和ハウス工業株式会社）

私は地域に貢献したいという思いから都市アメを選びました。1年間を思い返すと、研究をはじめ、WS、合宿…など地域に密着した活動に参加してきました。研究室に閉じこもってではなく、積極的に地域との交流をしていくことは都市アメの義務みたいなものだと思います。やがて「義務」が「当たり前」になった時に、それは都市アメの強みに変わると信じています。「県大に都市アメあり！！」と呼ばれる日はそう遠くありません。楽しく頑張っていきましょう☆

佐藤 昌宏（株式会社竹中工務店）

ただ毎日研究を行っている日に日にメリハリが無くなり、1日中研究室にいたのにも関わらず、ほとんど研究が進まない場合も出てくると思います。それでは1日を無駄にしまうだけなので、メリハリを付けて休む日を作るのも重要だと思います。しっかり研究が進んでいる人ほど、遊んだり、休んだりもしっかりしているものだと思います。因みに私は出来ませんでしたが。恐らく今までの人生で一番大変な1年になると思いますが、確実に自分が成長する年になるので、自分の限界に挑戦してみてください！！



高橋 ちえみ（秋田木工株式会社）

研究室で机とパソコンが与えられた自分の空間があるのはとても恵まれた環境だと思います。やる気がなくて学校に行きたくない日もあるだろうと思いますが、とりあえず研究室に来てみてはどうでしょうか？私はダルいなあとお昼も近くなってから来たのに、誰もいなかったりして、でもなぜか嬉しくなったりして何となく深夜まで研究室にいたりして、そんな日もなかなか楽しいです。研究は基本的な知識のない人は鋭いところを突いてきたりするものですので、お互いの研究に興味を持って活発に意見交換して下さい。最後に楽しく元気な研

橋本 力（トヨタホーム近畿株式会社）

就職活動は大事です！人生を決めると言っていていいです。就職先が決まるまでは、遊び、研究、恋、はさておき就職活動に専念した方が良いと思います。体調管理はしっかりしましょう。都市アメは居心地が良い。ソファもあればベッド(?)もある。ただ、それだけではよるしくないなので、炊飯器やレンジを駆使して健康的に生き延びて下さい。卒業設計は病みます。だからせめて体だけは健康でいるように心掛けて下さい。あとは気合いで乗り越えて下さい。ナントカなります。ナントカしましょう。



渡辺 佑真（大仙市役所）

研究中心の生活になりがちで、就職活動（内定後は内定先からの課題）、修学旅行、引っ越し、などの研究以外のことに関して疎かになりやすいので気を付けて下さい。そして、大学4年の1年を「研究」の1年にするのではなく、大学生生活最後の1年として後悔の残らない1年にして下さい。



前年度の活動 2008.4-2009.3

夏

2008.7 秋田地区かわまちづくりワークショップ

旭川・川反のかわまちづくりは、秋田市中心を流れる旭川と市街地を一体的に整備して地域活性化を目指すプロジェクトです。08年度は、卒論生の小暮、佐藤（昌）、佐藤（あ）の3人組が先生と共に参加しました。

彼らは、調査結果を「県大生が見た旭川・川反の現状と今後」としてパワーポイントでまとめ、さらに旭川沿いのウッドデッキのイメージを提案し整備模型を製作するなどの活動を展開し、ワークショップの際に堂々と発表して議論を巻き起こしました。なお、模型には都市アメと3人の名前が示され、イベントの際に使われると共に通常は秋田河川国道事務所の1Fロビーに展示用に貸し出しています。秋田に県大・都市アメあり、です。

▶写真1 川反探検隊参加者（左から：小暮賢、佐藤あすか、佐藤昌宏）



2008.9 秋

08' ゼミ合宿 ~飯塚まちづくりシャレット~

都市アメでは、年に1度、社会見学・社会人との交流体験等を目的としたゼミ合宿を行っています。08年度は、秋田県潟上市飯田川飯塚を対象として、シャレットを行いました。飯塚の特性である酒蔵を中心としたまちづくり案の作成に取り組み、学生間での盛んな意見交換が行われ、奇抜なアイデアが飛び交いました。

今回は、地区スケール、近隣スケール、建築スケールの3チームに分かれ、事前勉強、現地調査、事後報告を行う体制を執りました。現地調査、報告会では、小玉醸造の皆様や地域の住民の方々との意見交換の機会を持ち、短期間でしたが中身の濃い合宿となりました。年に1度のゼミ合宿は、研究室活動の象徴であると共に、社会を見据えた活動だと思えます。報告会が修了した後の打ち上げも恒例行事であり、新体制の研究室にいつもの団結力をもたらしました。



冬

2008.2/14-16

初めての試み!! 都市アメ研究発表展 in アルヴェ

都市アメ史上初の試みとなった研究発表展。研究ポスターの作成、案内状の送付など様々な作業を試行錯誤しながら行いました。3年生（現4年生）は就職活動の合間を見ながらの作業でしたが、それでも企画成功のために頑張ってくれました。卒業生も卒論の締切に追われる中で積極的に協力してくれました。都市アメ全体の団結無しには、今回の成功は無かったと思います。

3日間開催された研究発表展ですが、当日は通りがかりの市民の方など多くの方々に都市アメの活動内容を認識して頂くことができました。県立大学の存在を知っていたという方はほとんどいらっしゃいませんでした。今回の活動を通じ、さらに大学と市民の方々との交流が深まり、そこから何かが生まれれば…と思います。



2008.3/23

おめでとう
御卒業
おめでとう

春

そして、卒業……

学部生は4年、院生は6年という非常に長い時間を過ごした大学生活が終わりを迎えました。研究室に配属されてから、嬉しいことも、大変なことも、悲しいことも、楽しいこともたくさんあったと思います。でも、それはこのメンバーだからこそ感じる事ができたことではないでしょうか。正直、大学内でここまで先輩・後輩が仲良く、笑顔の絶えない研究室は無い!…と思います。先輩方が築き上げたこの雰囲気は、これからも継承されないといけないことです。これから配属される後輩達も、卒業する時に「都市アメでよかった!」と、思えるような研究室づくりをしていきたいです。



西田先生 教授に!!

西田先生が研究室再編に伴い准教授から教授になりました。そこで、西田先生に抱負をお聞きしました。西田先生のコメントはこちらです!!

『教授という地位は、その分野の最高峰と位置づけることが出来るかもしれません。』

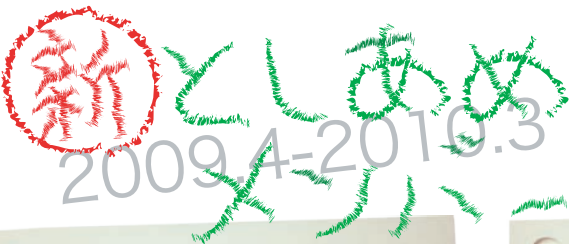
その地位に恥じないよう、さらには「出藍の誉」と言われるよう、これからも恩師を目標として安全な建築のためにがんばるつもりです。よろしくお願いいたします。』

建築学科に中国から 聴講生がやってくる!!

中国から嚴彦淋 (yan-yanlin) さんという女性が、聴講生としてやってきます。当面は聴講生ですが、いずれ都市アメ研の研究生に、そして大学院進学を希望されています。これをきっかけに、私たちも中国語を勉強しましょう。

昨年度本荘キャンパスを 離れられた先生方


源城 かほり 助教授 (豊橋技術科学大学)
渡慶次 建 助教授 (トリノ工科大学)



都市アメニティ工学グループでは、新メンバーを迎えました。今年度は、この9人でお贈りします。メンバーに今年の抱負について一言、二言…抱負を語ってもらいました。


Takayama Azusa
高山 あずさ 1986. 1. 8
・秋田県立湯沢高校

学生最後の年なので悔いの残らないよう全力で学生生活を送りたいです。当面の抱負は、無事にカナダで発表して帰国することです。




Oguma Kohei
小熊 耕平 1986. 6. 14
・福島県立福島東高校

足を使って動き回る!!
…歩き回れる靴がほしい




Fukuda Yasushi
福田 恭史 1986. 5. 8
・栃木県立鹿沼高校

ついに、大学生活も残り1年を切ってしまったので、この1年は経験出来ることは、何でもやって、悔いの無いようにしたいです。



Odashima Yoshiaki
小田島 慶昌 1987. 8. 4
・岩手県立黒沢尻北高校


建築学科全学年の架け橋になる!
1,2年の名前をガンバって覚えたい!



Sato Yui
佐藤 祐衣 1988. 3. 29
・青森県立八戸高校


海外旅行 陶芸 ガラス細工 作曲 乗馬…

今年度は色々なことをやってみたいです。多岐に渡って取り組んで実現したいです。



Tachibana aoi
立花 葵 1987. 12. 3
・岩手県立盛岡北高校

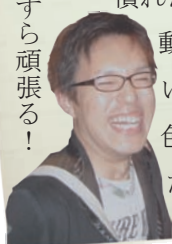
今年度も雰囲気の良い研究室でいたいです。そして、健康な都市アメライフをおくられるように頑張ります。



Tsuchida Kentaro
土田 健太郎 1987. 6. 26
・新潟県立新潟江南高校


慣れたら、WSなどの学外活動に積極的に参加したい。さらに慣れたら…色々などこへ旅行に行きたい。

研究をひたすら頑張る!



Nakajima Yoshitaka
中島 祥崇 1987. 5. 7
・秋田県立角館高校


まささんから受け継いだパソコンを完全に自分のものにする&研究室の居心地の良さを追求する。



Fujiwara Katuaki
藤原 克彰 1987. 11. 9
・岩手県立花巻南高校

大学生活で最後の1年なので、今しかできないことを楽しむ。

今年は大曲の花火大会に行く。
一人暮らし 部活 旅行 バイト
…就活と研究も。



イベント計画表 2009.4-9

- 4
 - ・入学式
 - ・20日 計画系合同ゼミ・お花見会
- 5
 - ・本誌発行
- 6
 - ・高山 あずさ論文発表
PLEA(ケベック)
- 7
 - ・ソーラーバーベキュー??
 - ・18日 オープンキャンパス
- 8
 - ・建築学研修発表
 - ・3年生研究室配属
 - ・26~29日 東北支部 仙台大会
- 9
 - ・ゼミ合宿

栄えある第1回の報告者

3期生 小野寺 淳哉さん

OB・OG



はじめまして。3期生の小野寺淳哉と申します。『卒業生からのメッセージ』ということで、初回を飾ることができるのは非常に光栄です。社会人3年目の身分で後輩へのアドバイスとはおこがましいですが、近況もふまえ私の思うところをお伝えしようと思います。

私は大学時代、地理情報システム (GIS) を自治体の災害対策に活用するための研究を行いました。そして、社会人となった今は、地図を制作する会社に勤めています。みなさんもカーナビや Web で地図を利用されたことがあるかと思います。私の会社は、「現地調査⇒地図データ整備⇒地図編集⇒商品制作」という工程を経て、まさに、それら地図を世の中に届けています。その中で私の役割は、「地図データ整備を行うための整備システムの開発」です。地図に関わるさまざまなシステムを開発するために、日々、パソコンに向かってプログラムと格闘しています。

こんな私ですが、入社当初は、「なぜ、情報系大学出身ではない自分が、プログラミングをやらないといけないの!? プログラミングなんて全然分からないんだけど。」という戸惑いがありました。本格的にプログラムを行うのは初めてでしたので、本当に苦労しました。しかし、開発の奥深さや会社での役割の重要性を体感する中で、次第にやりがいを持って仕事に取り組めるようになりました。現在では、今の職種に就くことができ、本当に良かったなと思っています。

ここで、私からみなさんに職業選択に関するアドバイスがあります。今、みなさんが勉強し、身につけようとしている技術や学問だけで職種を選んでほしくないと私は思っています。大学時代に身につけられる技術は限られます。会社で役立つほどではないと私は思います。取り組む姿勢次第で、入社1年もあれば、その専門の大学出身者たちに追いつくはずですよ。ですので、是非さまざまな職種を可能性に入れて、本当にやりたいことを探してみてください。そして、もしチャレンジしたいことがあればチャレンジしてみてください。そして最終的に決断した職種が、現在学んでる学問に沿っているものだったら、それは本当に幸せなことだと思います。

編集後記

ニュースレターを作るのは初めてで、どのように作ればいいのか分からず、正直これで良いのか不安ですが何とか発行にこぎつけることが出来ました。原稿の協力をして下さった方々には本当に感謝しています。また、今回、広報の編集を夜遅くまで手伝ってくれた立花さんに大変感謝しています。



本荘キャンパス 秋田県由利本荘市海老ノ口 84-4



b08c035@akita-pu.ac.jp

福田アドレス

OB・OG へのお願い

都市アメからのお願いです。ぜひぜひ、OB・OG のコメントにご協力をお願いします。連絡は福田まで…。山口先生が今年度から就職委員長となりました。OB・OG の皆さん、就職ガイダンスで「先輩に聞く就職活動と企業状況」という企画がありますので、来校可能な方は是非ご協力下さい、とのことですよ。